かわむらこどもクリニックNEWS

Volume 20 No 4 | 225号 | 平成24年 4月 5日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE http://www.kodomo-clinic.or.jp/

ロタウイルスワクチン

院 長

さて、インフルエンザは下火になってきましたが、陰に隠れて感染性胃腸炎の流行が続いています。小児の感染性胃腸炎の代表はノロウイルスとロタウイルスで、前者は秋から冬、後者は冬に流行します。流行状況ですが、昨年12月にはノロウイルスの大きな流行がみられましたが、今年に入ってからは減少傾向を示しています。またロタウイルスは2月から少しずつ増加傾向を示しています。一般的にはノロウイルスの方がロタウイルスに比べて、罹患者は多く、大きな流行になります。

当院では東北大学微生物学分野と協力して、昨年11月からノロウイルスと今年2月からロタウイルスの迅速検査を行い、加えてウイルス分離を行っています。比較的重症の感染性胃腸炎78例（5ヶ月）で迅速検査を行い、陽性率は82%(ノロ:78%、ロタ:22%)でした。3月では21例のうち迅速検査陽性例は20例(95%)、内訳はノロ6例(30%)ロタ14例(70%)でした。（二面にグラフを示しました）

ロタウイルス感染症予防を目的に、昨年秋からロタウイルスワクチン(以後ロタワクチン)が接種できるようになりました。今月は新しいワクチンについて考えてみましょう。

ワクチン話の前に、感染性胃腸炎について整理をしておきましょう。ロタウイルス感染症は、ほとんどの子ども達が5歳までに1度は感染するありふれた病気です。もちろん症状には差があり、便が緩い程度から入院するほどの重症まで幅があります。乳幼児で重症化しやすく、日本では120万人/年が発病し、8万人近くが入院しています。世界に目を向けると1億人が罹患し、60万人が死亡していると推定されています。

感染経路は糞口感染と呼ばれるもので、患者の吐物や下痢中のウイルスが口から入ることによります。便1gには10億個ものウイルスが排泄され、わずか10個が口から入れば発病するほどの強い感染力です。ウイルスは環境の中で安定なため、汚染された水・食物、汚染された環境(食器・ドアノブ等)を触った手からでも感染します。

一般には乳幼児を中心として感染しますが、保育所・幼稚園だけでなく、家族内など成人でも集団発生することがあります。伝染力が強く環境で安定なため、集団感染を予防することが難しい病気のひとつです。

潜伏期間は24~48時間で、症状は嘔吐と下痢と発熱です。ノロウイルス感染症と比べると重症のことが多く、下痢と嘔吐が激しいだけでなく、40°C以上の高熱を伴い、改善するまで4～7日ほどかかります。下痢は米のとぎ汁のような便がみられ、白色便性下痢症とも呼ばれていました。軽症みえても、嘔吐や下痢が進行し脱水や痙攣を合併することもあり、点滴や入院が必要なことも少なくありません。治療は対症療法のみで、抗ウイルス剤などの直接的な治療はありません。

ほとんどの子どもが罹患し、感染を防ぐことが難しく、重症化することがあり、治療法が無いのであれば、ワクチンによる予防以外に選択の余地はありません。ワクチンというと、誰でも副反応が心配になります。1998年に世界で初めて承認されたロタワクチンは、腸重積が1万接種に1人程度みられたため1年ほどで中止されました。以来ワクチンと腸重積の関係について議論が続けられています。腸重積はワクチンに関わらず発生し、発症率は生後半年を越えると高くなります。結局ワクチンと腸重積の関係はあきらかではありませんが、わずかながら増加させる可能性があるとの結論に落ち着いています。現在使用可能なワクチンはロタリックス®(GSK)で、2004年に承認され、導入した国では有効性が確認され、WHOでも小児の重要なワクチンとして位置づけています。病気に対する有効性以外に、別な側面をとらえる必要があります。子どもが病気になれば、親御さんの様々な負担が増えます。例えば、通院等の費用、時間的拘束、欠勤等の影響などです。任意接種なので自己負担となりますが、病気以外の経済的効果にも目を向ける必要があります。腸重積の発症という問題は残りますが、積極的に接種すべきワクチンのひとつと考えています。

さらに、近日中にロタテック®(MSD)の発売が予定されています。両ワクチンとも経口生ワクチンなので、他のワクチンとの間隔を4週以上空けなければなりません。腸重積の発生は年齢とともに高くなることから、初回の接種は12週までに終了することを強く勧めたいと考えています。

ロタワクチンの初回接種は8週(2ヶ月)に、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンとの同時接種で始めましょう。

ワクチンで病気が予防できることは、素晴らしいことです。せっかくの与えられた機会ですから、チャンスを逃さないようにしたいものです。

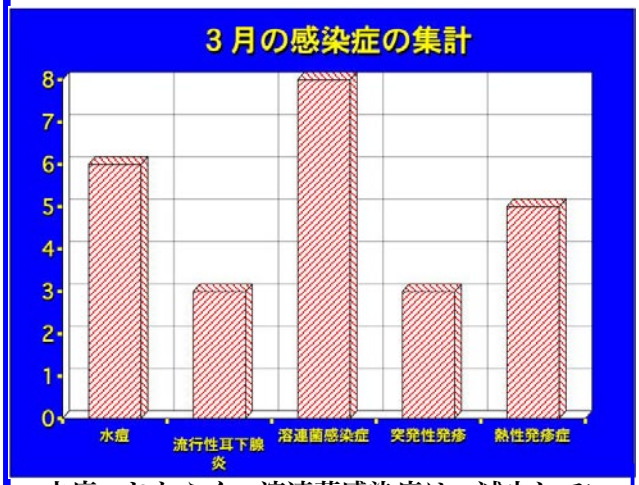
4月のお知らせ

・医学部学生実習
4月6日（金）
ご協力、よろしくお願いします。

・栄養育児相談 11日、25日（水）
13：30～
栄養士担当 参加無料

読者の広場

先月は 16 通のメールを頂きました。今回もプライバシーに関わるものが多かったので 1 通だけ。宮城野区の菅井さんの相談とも愚痴ともつかないメールです。「昨日は、お世話様でした。帰宅後薬を飲む前にまた吐かれてしまい…え～ど～して～!? と思いましたが、それ一回だけで、時間をおいてポカリを少し飲ませ、吐かなかったので薬も飲ませ、夕飯は久しぶりにパクパク食べました。熱も下がり、お陰様で元気いっぱいです。咳が少し気になりはじめました。それから、恐れていた事が…私は、マスク完全防備し換気湿度に気を使い何とか今回は、免れたか？と思っておりましたが…。インフルエンザなんか、かかったこともない。オレはかからない。(確かに今までは、かからなかった) と過信しマスクもしていなかったパパが昨夜より、あやしげな症状。今朝仕事に出る時は 37.1℃昼頃限界だと帰宅した時に、37.9℃。昨夜下痢をして、吐き気もあったようですが、心暖もインフルでしたし、私はインフルを疑って欲しかった。検査をしても、時間的にまだ出ないだろうと。結果は陰性。胃腸炎の可能性が高いとのこと。喉が痛い。ゾクゾクする。身体の痛み。頭痛。発熱。家族にインフルがいた。十分臨床診断できるのでは？と思うのは、私だけでしょうか？。案の定、熱も上がってきて顔面紅潮 38℃越えてます。かわむら先生が、新聞でふれられてたように、臨床症状で診断はできないものなのでしょうか？。私は、医者じゃないので、偉そうな事は言えませんが…愚痴になってしまいました。よりによって、妊婦の時に今年は、先月の心〇のインフル A 型から始まり、もういい加減やんだく (方言入っちゃいます) なりました (笑)。また、1 週間…うつらずに乗り切れるのか？。相談というよりも、愚痴メールになってしまいました。お忙しい先生の時間をさいてしまい、すみません。」。先月号の記事で問題にしたことと同じです。まず、インフルエンザに一番詳しい医師は小児科医です。皆さんもご存知のようにインフルエンザは子ども中心に流行する病気です。経験があるから臨床診断に重点を置くのです。ましてこのメールのように“時間的にまだでないだろう”といっているのに検査をするのは詐欺みたいなものです（ちょっと言い過ぎかもしれませんが）。陽性にならない時期に検査をして料金を請求するのは、儲けるためと思われても仕方ありません。家族にインフルエンザがいて、1～2 日で熱が出たら、90％の確率でインフルエンザと考えます。ですから、当院では御主人のような場合には、検査しないで診断します。診断に自信があるからこそ、検査しないですむはずですから流行期では、検査診断半分、臨床診断半分程度です。まあ、医師によってレベルだけでなく、考え方がちうのは止むを得ないことなのかもしれません。結局、御主人はインフルエンザでした。その後の展開は、ブログ「こどもクリニック四方山話」に掲載してあります。是非ご覧ください。



水痘、おたふく、溶連菌感染症は、減少しています。グラフには示していませんがインフルエンザは、12 月 83 人、1 月 62 人、2 月 190 人と増加した後、3 月は 140 人と減少しています。仙台市の流行も 2 月をピークに減少し、そろそろ終息しそうです。1 面記事にも載せましたが、感染性胃腸炎は少し増加傾向があり、ロタウイルスが中心です。

	検査件数	陽性例	
		ノロウイルス	ロタウイルス
2011. 11	11	8	0
12	40	31	0
2012. 1	4	3	0
2	2	2	0
3	21	6	14
合　計	78	50	14

東北大学医学部小児科臨床教授就任のご報告

クリニックでは、2001 年から、医学部 5 年生の実習を受け入れてきました。その業績を評価され、この度小児科臨床教授に就任することになりました。

このこともひとえに多くの皆さんのご協力のお陰と思っています。本当にありがとうございました。これからも、学生実習にご協力お願いいたします。

子ども医療費助成に関して

H24 年 1 月から助成年齢が拡大されました。それに伴い、一部負担金が徴収されます。負担が増えますが、多くの子どもたちが恩恵を受けることになります。お子さんの未来への投資と考えてご理解をお願いします。詳しくは院内掲示を。

一部負担金（通院）は、次の通りです。

3 歳未満　負担なし（従来通り）
3 歳から小学 3 年生まで　初診時 500 円

よろしくご理解をお願いいたします。

Mail News,Twitter,Blog の紹介

Mail News は、震災を切っ掛けに 380 人を越えるお母さんが登録しています。右上のバーコードから「登録希望」と登録者、お子さんの名前を送信してください。携帯用 HP(左のバーコード) で Mail News と Twitter も読めます。Blog「子どもクリニック四方山話」(右下バーコード) では、子育て、医学だけでなく、趣味、グルメ、旅行記等のおもしろい話題を提供しています。是非ご覧ください！

編集後記

インフルエンザも下火になり、春休みも重なり、病気に関しては比較的落ち着いた時期です。

少し時間的に余裕が出来たこともあり、2002 年に出版した「小児科医がやさしく教える　赤ちゃん・子どもの病気」をブログに順次掲載しています。読むだけで役立つこと請け合い！。内容は少し古いのですが、お役に立つこと請け合いです。是非ご覧ください。

麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン　『1 才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』

『お母さんクラブ』を新年度から再開します。現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。！！